

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075400285		
法人名	社会福祉法人 直鞆会		
事業所名	グループホーム やすらぎ園		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字木月1826番地1 (電話) 0949-42-6883		
自己評価作成日	平成 23 年 5 月 12 日	評価結果確定日	平成 23 年 7 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員の信頼関係を深め、その人らしい生活が出来るよう取り組んでいる。病院受診など健康管理にも力を入れている。
又、利用者が笑顔で生活できるよう、ボランティアの協力も得ながら書道、竹細工、陶芸、音楽など楽しんでいただいております、外出の機会も多く設けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 23 年 6 月 2 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

行政との連携が強く、徘徊高齢者ネットワークやボランティア交流会等を通して積極的に地域とも交流している。事業所は「その人らしさを大切に」という理念の実践と利用者の生活の安全と安心に向け、多数のボランティアの受け入れや教育体制の構築を重視している。委員会活動や利用者の個別性を尊重するための面談を活発に行い、利用者や家族から意見や要望等を積極的に聴き、家族も参加する忘年会や一泊旅行を行う等サービスの向上に努めている。特に園長・副園長は職員の意見や要望を言いやすいように声かけをし、働きやすい職場づくりを目指している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせるよう『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、また、グループホーム独自の理念として『その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』を掲げている。朝礼や各会議の折に全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認し、意識している。	利用者が地域の中でその人らしく生活を送ることが出来るように「その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を」という事業所独自の理念をつくり、地域との交流について事業計画に盛り込み、実践している。管理者と職員は朝礼やミーティング時に理念を唱和し、共有と実践に向けて話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。又、地域の書道・竹細工ボランティアの訪問もある。	町内会に加入し、子供会のお神輿や盆踊り、お茶会などの地域行事に参加し、公民館の美術展に作品を出品している。夏祭り等の事業所行事は地域に案内しており、近隣の中・高校生のボランティアや利用者の家族、行政など100名以上の参加がある。また、書道教室や音楽教室、陶芸教室、竹細工など沢山のボランティアの訪問者もあり、地域とは積極的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症などのテーマを掲げて家族介護教室を開催し、地域の高齢者へのケアに役立てるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催して入居者の生活状況や外部評価への取り組み等の報告を行い、問題点を探り、サービスのより良い向上を図っている。	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、サービスの利用状況や評価への取り組みなどについて報告している。行事へのボランティアの協力や保育所の演舞訪問要請など会議で委員から出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である介護教室を年1回開催し、町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していたり、入居者の実情を伝えている。	行政とは日頃から連携を図っており、お互いに相談できる関係を築いている。「目標達成計画」を町へ提出し、質の向上に取り組んでいる。年に1回、行政から委託されて認知症に関する研修を開催している。また、町内の徘徊高齢者を検索する「徘徊高齢者ネットワーク」事業を他の介護事業所や地域包括支援センターと連携を図りながら取り組み、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。身体拘束廃止委員会を設置し、会議や身体拘束廃止の内部研修を行っている。玄関に電子ロックはあるが、なるべくかけないようにしている。	基本的には施錠はしていないが、利用者の状態や事業所の状況によっては、やむを得ず玄関をロックすることもある。ロックの際には、家族に説明し、了解を得ている。身体拘束委員会を設置し、人権を尊重する標語を職員から募集し、事業所内に掲示する等職員の意識を高める取り組みを行っている。全職員は内部研修を受講し、研修資料や報告書などを保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い、理解に努めている。	制度に関して利用者・家族には契約時に説明している。玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。全職員は内部研修で学ぶ機会が設けられている。テキストや研修記録などがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。	日頃から利用者及び家族の来訪時に積極的に声をかけて意見を聴いている。また、年に1回家族との忘年会や家族同伴の一泊旅行等を計画し、家族の意見や要望を聴く機会を設けている。職員は、年1回利用者と面接を行い、ホームでしたいこと、して欲しい事などを聴取し、「私のホームでのお願い帳」として個別に記録を残している。そこでの意見（海の見えるところで刺身を食いたいなど）や要望を行事などの日頃のケアの中で、どのように実現していくかについて話し合い、運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・職員会議の他、随時職員の意見を聞いている。	自己評価は職員が各分担された項目を作成している。ミーティングや勉強会において全職員で話し合い、管理者が集約して作り上げている。職員が日常的に運営に対する意見や提案、研修受講の希望、勤務に対する希望などを言い易い環境となっている。イベントの内容や利用者間の人間関係など職員の気づきを運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の朝礼で定期的報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう考慮している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集時はハローワーク等を通して行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。</p> <p>能力が発揮できるよう考慮している。</p>	<p>採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年後も希望に応じて再雇用も可能である。事業所は「働きやすい職場環境」を目指し、資格取得や勤務しやすいシフトづくりなどに力を注ぎ、離職者も少なく、職員はいきいきと働いている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体により、職員倫理・プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。</p>	<p>職員は人権に関する職員の倫理規程・法令など内部研修を受講している。テキスト・研修記録・報告書などがある。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部・外部研修の年間計画を立てて取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ報告し、共有できるようにしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域勉強会に参加している。ボランティア連絡協議会の主催で町内のグループホーム交流会があり、入居者・職員共に交流している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、関係作りに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に当たり面接し、現在の家族や本人の状況を十分に聴き、理解するよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネージャーとも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者から料理や花作り等を教えてもらい、一緒に楽しんでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子を話し、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。 年に一度実施しているグループホーム旅行では家族に参加して頂き、コミュニケーションを図っている。家族との関わりも深まり、気持ちが伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないように訪問し易い雰囲気作りを努めている。 行きつけの美容院や化粧品屋にも行っている。	利用開始時に利用者の基本情報を聴取する際、本人や家族等から馴染みの人や場所について聴取している。入居後もそれまで通っていた馴染みの美容室や化粧品店に出かけている。また、利用者の希望で知人に会いに行ったり、会いたいとの思いを伝える為に電話をかける機会を支援したり、これまでの関係が継続できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士が声をかけ合い、食事の用意なども出来るように職員がさりげなく支援している。又、ソファの配置で入居者同士が雑談しやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特別養護老人ホームに移られた方や長期入院となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。アンケート調査で具体的な思いや希望を聞き、それに沿ったサービスを提供している。	利用開始時に利用者の生活歴や暮らしに対する意向などの基本情報を確認している。また、年に1度「私のホームでのお願い帳」として、ホームでしたいこと、して欲しい事など個別に聴取して把握に努めている。日常においても積極的に声かけを行い、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、面会時に家族から情報を得たり、表情や雰囲気でも気持ちを推し測っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については、家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の支援経過にて日々の様子や発言などを記入し、職員間で情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明し、気付きや意見を出し合い、介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるようにしている。家族の同意の印をもらっている。	月に1回ケア会議を開催し、担当者の気づきや本人・家族の意見を聴き、主治医からの意見などを参考にケアマネジャーが介護計画を作成している。3カ月に1度、または、状態変化や状況に応じて計画の見直しを行っている。介護計画は本人や家族に説明され、署名・押印がある	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。 入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。 外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアの訪問がある。 又、避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診している。 また、かかりつけ医以外の他科の専門医の診察が必要であると思われる場合等は、家族とも十分に連絡を取り、診察を促したりしている。	かかりつけ医については、家族や利用者の希望に添っている。定期受診は状態把握のために職員が付き添い、状態に変化があり、病状説明等がある場合は家族が同行している。受診内容については、面会時や電話連絡などにより、その都度家族と情報の共有を行うよう努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さず、看護師に報告し、実際の容体も診てもらって、その都度指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は、毎日入院者の介護を行い、入院中の洗濯も行っている。 早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方について入居時に家族へ説明を行っている。 看取りの方針を共有している。	重度化や終末期のあり方については、明文化しており、入居契約時や機会を設けて説明を行い、同意書に署名押印をもらっている。状態に変化があれば、随時医師を交えて話し合いを行う体制を講じている。 職員は勉強会を通して、事業所の方針や終末期に向けたケアの在り方について学んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。 救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成し、消防署と連携して年2回の定期訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。非常食も準備している。	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練や消火器の使い方等の訓練を行っている。ボランティアにきている地域住民にも呼びかけを行っているが、参加はまだない。災害時の自動通報装置で、地域商工会の団体にも知らせる体制になっており、実際の災害時には協力が得られるよう体制が整えられている。非常用備品に関しては、事業所内に飲料水、米飯、レトルト食品、毛布やおむつなどを準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう内部研修や職員会議で周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。	職員研修や会議の中で、人権を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会がある。また、事業所の身体拘束廃止委員会において、人権の尊重に関する標語を職員から募集して事業所内に掲示するなど、意識を高める取り組みを行っている。また、管理者は職員のプライバシーを損ねないよう注意を払っている。利用者および家族のプライバシーに関することについては、職員は守秘義務の誓約書を交わして徹底させている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、入居者の希望や関心を引き出すようにしている。 生活の中での表情を注意深く読み取り、気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるように場面作り等の支援を行っている。体操やサークル活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。 起床や就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。 本人の希望する理容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。 衣類など一緒に買物に行き、笑顔で帰って来られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事は職員らと同じテーブルで会話をしながら、その人のペースでゆっくり摂れるよう気遣っている。	職員と利用者が、一緒に盛り付け等の準備を行い、共に同じ食事を摂っている。職員は家庭的で楽しい食事の雰囲気となるよう、食事中は「食」を話題にした会話づくりを行っている。その他、ソーメン流しや季節に応じた行事食など、利用者の好みや要望を取り入れて支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成を行い、摂取量の記録をし、摂取量の少ない利用者には補助食品で対応している。 水分摂取制限がある入居者は、その都度量をチェックして調整している。 又、量や栄養バランスについて管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援できている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している利用者は入れ歯を外して、一人ひとり歯磨きやうがい等の口腔内ケアを実施している。 入れ歯は週に一度ポリドント洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成して排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄を行っている。 又、個人の状態に応じて声掛けを行っている。	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄の時間帯を把握し、利用者のサインを見逃さずに基本はトイレでの排泄が出来るよう支援を行っている。排泄失敗の際は、周囲に気付かれないよう配慮し、おむつ交換や清拭を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルトを摂取してもらっている。 体操や歩行などの運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴できる。 本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘っている。足浴でリラックスしてもらおう時もある。	入浴は毎日可能。少なくとも2日に1度は声かけを行っている。入浴を拒否される利用者に対しては、言葉かけを工夫したり、違う職員がタイミングをずらして声かけを行うなどして。浮腫のある利用者には足浴を行うなど、一人ひとりに応じた入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、利用者のリズムに合わせて安眠できるように対処している。 毎日の日課や行事はなるべく参加してもらおう声かけしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間や名前を書き込んでいる。薬の種類や副作用については、皆が理解できるようファイルしている。 薬の変更時は、症状等日常の様子を注意深く観察・記録し、主治医に情報提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食やショッピング等に出掛けたりしている。 又、書道・竹細工・音楽・陶芸等のサークル活動も楽しみにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、花見や旅行、ドライブ等外出の機会を作っている。 又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会があり、入居者の希望で個別に買物や外食もしている。	季節に応じた花見やドライブ、日頃からの個別の希望に応じた買い物など、利用者一人ひとりの体調や意向に応じた外出支援を行っている。年に1回は、家族同伴の一泊旅行を行っており、家族も自宅では普段行けないような場所への外出が可能となっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時に利用者個人の財布を使い、本人に使ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、電話をかけるたびに対応している。 自分でかけられない方へは支援している。 家族の方へ年賀状を送ることを勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、心地よくしている。 床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。	畳の間は掘りごたつ式のテーブルがあり、季節の生花が飾られている。共有空間には落ち着いた色調の壁飾りや入居者の共同作品の展示もあり、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に共有できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、サークル活動での作品も飾っている。	居室には入居者の使い慣れた家具や馴染みの物、家族の写真などが持ち込まれ、家庭的な雰囲気を利用者が安心して過ごせる空間を作り出している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。 又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせるよう『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』を掲げている。朝礼、各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認し、意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。又、地域の書道・竹細工ボランティアの訪問もある。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を開催し、認知症などのテーマをあげながら、地域の高齢者へのケアに役立てよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組み等の報告を行い、問題点を探り、サービスのより良い向上を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である介護教室を年1回開催し、町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していただき、入居者の実情を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。 身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行っている。 電子ロックは玄関ではあるが、なるべくかけないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い、理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・職員会議の他、随時職員の意見を聞いている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の朝礼で定期的報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等を通して行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。 能力が発揮できるよう考慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域勉強会に参加している。ボランティア連絡協議会の主催で町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多 方向から検討している。ケアマネージャーと も相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	生活の中で料理や花作り等を教えてもらい、 一緒に楽しんでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話 して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りを している。 年に一度実施しているグループホーム旅行で は家族に参加して頂き、コミュニケーション を図っている。家族との関わりも深まり、気 持ちは伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへ の関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰 囲気作りを努めている。 行きつけの美容院や化粧品屋にも行ってい る。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り 配慮している。入居者同士で声をかけ合 い、食事の用意なども出来るよう、職員がさり げなく行っている。又、ソファの配置で 入居者同士雑談しやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	隣接の特別養護老人ホームに移られた方や長 期入院となられた方へ時々会いに行くこと で関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。アンケート調査で具体的な思いや希望を聞き、それに沿ったサービスを提供している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については、家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の支援経過にて日々の様子や発言などを記入し、職員間で情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明しながら、気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるようにしている。家族の同意の印をもらっている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。 入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。 外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアの訪問がある。 又、避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診していただき、通院介助方法等は家族と話し合っている。 また、かかりつけ医以外の他科の専門医の診察が必要であると思われる場合等は、家族とも十分に話し合い、助言も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さず、看護師に報告し、実際の容体も診てもらって、その都度指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は、毎日入院者の介護を行い、入院中の洗濯も行っている。 早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方について入居時に家族へ説明を行っている。 看取りの方針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。 救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成し、消防署と連携して年2回の定期訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。非常食も準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう内部研修や職員会議で周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、入居者の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるように場面作り等の支援を行っている。体操やサークル活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。本人の希望する理容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。衣類など一緒に買物に行き、笑顔で帰って来られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事は職員らと同じテーブルで会話をしながら、その人のペースでゆっくり摂れるよう気遣いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成を行い、摂取量の記録をし、摂取量の少ない利用者には補助食品で対応している。 水分摂取制限がある入居者はその都度量をチェックして調整している。 又、量や栄養バランスについて管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援できている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している利用者は入れ歯を外して、一人ひとり歯磨き、うがい等口腔ケアを実施している。 入れ歯は週に一度ポリドント洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄を行っている。 又、個人の状態に応じて声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルトを摂取してもらっている。 体操や歩行などの運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴できる。 本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘う。足浴でリラックスしてもらう時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。 毎日の日課や行事はなるべく参加してもらうよう声掛けする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については、皆が理解できるようファイルしている。 薬の変更時は、症状等日常の様子を注意深く観察・記録し、主治医に情報提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食、ショッピング等に出掛けたりしている。 又、書道・竹細工・音楽・陶芸等のサークル活動も楽しみにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、花見や旅行、ドライブ等外出の機会を作っている。 又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会があり、入居者の希望で個別に買物や外食もしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時に利用者個人の財布を使い、本人に使ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。 自分でかけられない方へは支援している。 家族の方への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、心地よくしている。 床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士が一緒に共有できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、サークル活動での作品も飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。 又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない